

愛知県半田市農業委員会（女性農業委員・推進委員の登用）

【農業委員会の体制】（令和5年7月20日任期開始 新制度移行後3期目）

農業委員11名、農地利用最適化推進委員5名、事務局職員3名

1 地区の特徴・状況、課題

半田市の農業は、畜産が主体であり、農業生産額の約8割を占め、続いて、水稻、花きなどの施設園芸も盛んである。近年は、零細農家も増え、生産組合と関わりがなかったり、地域の農業者とつながりのない新規就農者も一定数いる。また、耕作者の高齢化と担い手不足により、農業委員のなり手も少なくなっている。

2 課題解決に向けた活動

女性農業委員登用については、JA女性部や農村生活アドバイザーだけではなく、令和2年の改選時には、商工会議所にも声を掛けた。その後、商工会議所から女性が中立委員として推薦された。令和4年度は、県内の女性委員で組織される「農業委員会レディスあいち」の知多地域の役員に半田市の中立委員が選任され、県内8地域から集まる役員会で得た情報を地元に戻してきた。この委員が、全国農業会議所が作成した「農業委員会における男女共同参画推進動画(DVD)」を「総会後に全員で見ることができないか？」と提案し、改選に向けて動きはじめる令和5年1月の総会後に出席委員全員で動画を視聴。これにより女性委員の登用に向けての機運が醸成された。

3 活動の成果

DVDの視聴をきっかけに、今まで農業委員の候補として視野に入れていなかった「“女性”が、地域にいるのではないかと考える委員が増えた。次期改選で退任を考えていた委員の中には、男性農業者の奥様に声を掛ける動きも出てきた。令和5年度の改選では、農業委員11名中5名(45%)、農地利用最適化推進委員5名中1名(20%)の女性委員が登用された。初回の総会時には、役目の重さに不安を感じた女性委員もいたが、いざ活動をはじめてみると、男性委員と遜色なく活動が出来ている。今後は、定年延長により農業従事者がさらに減る懸念があるが、女性だけでなく認定農業者も含め、地域特性を考えながら、3年後の改選に備えたい。

